

ソニー健保の令和7年度収支決算が、去る7月22日(水)に行われた第213回組合会で可決・承認されましたのでお知らせします。

健康保険(一般勘定)について

令和7年度決算は20億2,810万円の黒字となりました。

黒字の主な要因は、前年度からの繰越金と平均標準報酬月額増加によるもので、黒字分は令和8年度へ繰り越します。

収入トピックス

- 健康保険収入は令和6年度より1.2%増の430億5,149万円となりました。

被保険者数は、ここ数年は増加傾向でしたが、令和7年度は前年度と同程度となりました。

また、保険料の基礎となる平均標準報酬月額については前年度比6.0%の増加、一方で一人当たりの賞与額は前年度比12.7%の減少となりました。被保険者の約半数を占める複数の事業所において、令和7年度に給与および賞与制度変更があったことが要因と考えられます。

支出トピックス

- 加入者への現物給付(医療費負担)や現金給付にあてる「保険給付費」は217億6,806万円となり、前年度実績に対して5億2,181万円の増加、率にして2.5%増となりました。ソニー健保に限らず、コロナ禍以降は、保険給付費は増加傾向にあります。
- 高齢者医療を支える国への「納付金」は220億6,654万円で、前年度に対して約7億円強の増、率にして3.3%の増となりました。医療給付費の

増加や団塊の世代が75歳に到達したこと等による後期高齢者数の増加により、納付金は引き続き増加傾向となっています。

- 加入者の生活習慣病予防、がん検診補助、歩king等、健康づくりの施策にかかる費用である「保健事業費」は、前年度比2.1%増の11億5,055万円となりました。コロナ禍で一部の事業を実施できなかった時期から少しずつ増加傾向となっています。
- 「保険給付費」と「納付金」の2つで、健康保険収入を超える支出(101.8%)となっています。

介護保険(介護勘定)について

保険料収入は65億8,828万円で、介護保険料率の改定がなかったため大きな増減はなく、前年度比で約5,300万円、率にして0.8%減少となりました。介護保険の対象となる40歳以上65歳未満の被保険者数の人員減が要因と考えられます。

支出では、国に納付する介護納付金が59億3,302万円で、前年度と比較して1億1,709万円の減少(前年度比1.9%減)となっています。また、2年前の精算分として約9億677万円の戻りがありました。その結果、収支としては36億7,073万円の黒字となり、予算で定めた36億3,560万円を令和8年度に繰り越し、残りを準備金として積み立てました。

これらの収支をふまえ、本年度(令和8年度)の介護保険料率は、19/1000(1.9%)から17/1000(1.7%)に引き下げとなりました。

■ 決算の基礎数値

被保険者数	合計	63,237 人
平均年齢 ※1	平均	43.3 歳
平均標準報酬月額	平均	554,780 円
総標準賞与額 ※2	平均	1,915,801 円

■ 健康保険料率 ※3

事業主	被保険者	合計
49.2/1000	32.8/1000	82/1000

※1…特例退職被保険者を除きます。

※2…賞与の年間総額の平均額です。(特例退職被保険者除く)

※3…保険料率は賞与にも掛けられます。

令和7年度 決算報告

⦿…このマークは『被保険者1人当たり額』です。

